

[年度] 平成26年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] カキ枝変わり新品種「堀内早生」の品種特性

[要約] 「堀内早生」は「中谷早生」と同時期の9月上中旬に収穫できる。果実は果形が腰高で、果実重が「中谷早生」と同等もしくはやや大きい。栽培上の利点として着蕾数が「刀根早生」と同等で「中谷早生」より少ない。

[キーワード] カキ、枝変わり、品種

[担当機関名] 果樹試験場かき・もも研究所 [連絡先] 0736-73-2274

[専門分野] 果樹

[分類] 研究

[背景・ねらい]

和歌山県における9月に出荷されるカキは「中谷早生」が主流であり、高単価で取引されてきたことから栽培面積を拡大してきた。「中谷早生」は高温時でも着色良好な優良品種であるが、年によって小玉果や生理落果が多発する。また、樹勢低下に伴い着蕾数が増加し、摘蕾作業が繁忙化する等の問題がある。そこで、こうした問題の解消が期待できる「刀根早生」の枝変わり新品種「堀内早生」（2014年3月6日品種登録）の品種特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「堀内早生」は収穫期が9月上中旬で「中谷早生」とほぼ同時期である（第1表）。
2. 「堀内早生」の果実重は「中谷早生」と比べて同等もしくはやや大きく、縦径が大きく腰高な果形である（第1表、第1図）。「堀内早生」果実は収穫期に急激に肥大し、約1週間で30g程度大きくなる（第2表）。
3. 結果母枝あたりの着蕾数は「刀根早生」と同程度で「中谷早生」の半数程度であることから、同時期収穫の「中谷早生」より摘蕾作業の省力化が見込める（第2図）。

[成果の活用面・留意点]

1. 栽培管理は「刀根早生」、「平核無」に準じて行う。ただし、樹勢が強いと生理落果が多発するため、環状はく皮等の対策が必要である。
2. 苗木によっては7月下旬から8月上旬にかけて後期落果及び十字型黒変果Ⅰ型が発生する可能性があるため留意されたい。このため、これらが頻発する樹は優良系統に改植を行う必要がある。現在、後期落果性の低い優良系統の選抜に取り組んでいる。

[具体的データ]

第 1 表 「堀内早生」 の特性

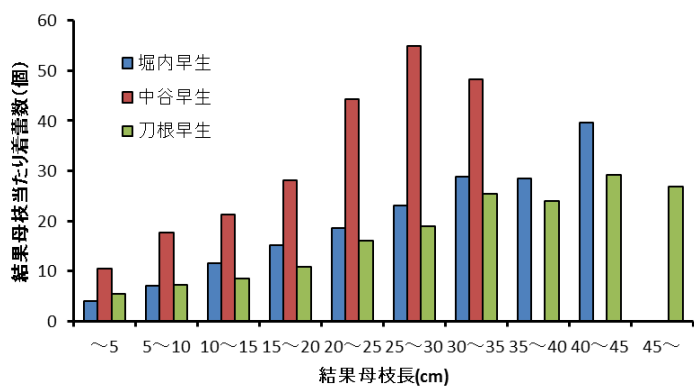
品種	年次	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	果径(mm)		糖度 (Brix%)
					横	縦	
堀内早生	2011	-	9月12日	191	78	53	15.6
	2012	5月18日	9月6日	182	77	52	15.4
	2013	5月15日	9月12日	197	79	52	15.4
	2014	5月15日	9月11日	224	81	57	14.6
	平均	5月16日	9月10日	198	79	54	15.2
中谷早生	2011	-	9月14日	189	78	50	14.1
	2012	5月16日	9月6日	158	73	49	14.9
	2013	5月16日	9月12日	177	76	48	15.4
	2014	5月16日	9月11日	205	80	52	13.1
	平均	5月16日	9月10日	182	77	49	14.4

第 2 表 収穫期における「堀内早生」の果実品質の推移 (2014)

収穫日	品種	果実重 (g)	果径(mm)		果皮色 (カラーチャート値)	果肉硬度 (kg)	糖度 (Brix%)
			横	縦			
9月4日	堀内早生	197	77	57	3.0	2.5	13.0
	中谷早生	170	75	50	2.4	2.5	11.8
9月11日	堀内早生	224	81	57	4.7	2.1	14.6
	中谷早生	205	80	52	4.2	2.4	13.1
9月17日	堀内早生	257	85	60	5.0	1.8	15.2
	中谷早生	217	81	53	5.0	2.0	14.5



第 1 図 「堀内早生」果実



第 2 図 結果母枝あたり着蓄数の比較 (2013)

[その他]

研究課題名：極早生柿新品種の特性解明と栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成25～27年

研究担当者：熊本昌平

発表論文等：園芸学会平成26年度春季大会ポスター発表

ホームページ掲載の可否：可